

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B5 教育と社会	20140586018501	●教育と社会 I(教育原理 論)	和	E	山岸 賢 一郎	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B5 教育と社会	20140586018901	●教育と社会 I(教育心 理)	和	E	吉村 幸	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-B5 教育と社会	20140586019301	●教育と社会 I(教育行 政・制度論)	和	E	楠山 研	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B5 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586018501	科目番号	05860185
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育原理論)		
編集担当教員	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山岸 賢一郎		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	医学・歯学・工学・環境		
担当教員Eメールアドレス	yamagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 2 2 1		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜3時限 (必ずメールでアポイントメントをとってください)		
授業の概要及び位置づけ	教育に関する基礎的な知見(理念・哲学・思想・歴史等)を学びつつ、教育に関わる事からに関して「批判」的に考察する力を養う。同時に、教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の自覚と力を養う。		
授業到達目標	教育に関する事からついて、教育に関わる基礎的な知見(理念・哲学・思想・歴史等)を踏まえたうえで、「批判」的に、ひいては「主体」的に、考えることができる。また、倫理観と責任感を持って、「教育」および「教職」に向き合うことができる。 なお、ここでいう「批判」とは、単なる否定・非難の意味では決してない。根拠に基づいて、世の中に在る、あるいは自分の中に在る、常識や信念について問い直す、吟味する、といった意味である(詳しくは授業で説明する)。		
授業方法(学習指導法)	講義形式を基本とする(レジュメや映像等を適宜使用しながら講義を進め、各講義ごとに課題を課す)。 講義以外に、他の受講者と意見交換をしつつ、思考内容を深め、発展させる時間を設ける。 なお、主体的学習促進支援システム(LACS)を活用して授業を行う。各自で事前に使用法を確認しておくこと。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション(「批判」的思考について)	
	2	「子ども」とは誰のことか(歴史・思想的観点を踏まえて1)	
	3	「学校」とは何か(歴史・思想的観点を踏まえて2)	
	4	「学校」に通うということ(歴史・思想的観点を踏まえて3)	
	5	思考を深めよう1: 議論の小括と発展	
	6	「戦中の教育」をめぐる(歴史・思想的観点を踏まえて4)	
	7	「教育基本法」とは何か(現代の「教育課題」に向き合う1)	

授業内容	8	青少年は「凶悪化」したか（現代の「教育課題」に向き合う2）
	9	「家庭の教育力」は低下したか（現代の「教育課題」に向き合う3）
	10	若者の「自律・自律」と教育（現代の「教育課題」に向き合う4）
	11	思考を深めよう2：議論の小括と発展
	12	「男女平等」と教育をめぐって（教育の「現実」と「制度」1）
	13	「学校」の「先生」に何が求められるか（教育の「現実」と「制度」2）
	14	「ゆとり」と「学力」をめぐって（教育の「現実」と「制度」3）
	15	思考を深めよう3：議論の小括と発展
	16	
キーワード	批判, 吟味, 教育原理, 教育哲学, 教育倫理, 教育史, 現代教育思想（その他, 上記の授業内容も参照）	
教科書・教材・参考書	<p>教科書は指定しない。LACSも活用して、適宜資料を配布する。 なお、以下の参考図書は事前に読んでおくとう業がより分かりやすくなる、ないしはより授業を楽しむことができる。 他の様々な参考図書については、授業の際に適宜紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江藤ほか『子どもの教育の歴史』名古屋大学出版, 2008 ・広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書, 1999 ・土戸敏彦『冒険する教育哲学』勁草書房, 1999 	
成績評価の方法・基準等	授業ごとに課す課題（小レポート等） 40% 最終レポート 60%	
受講要件（履修条件）	授業外で週2時間以上の学習をすること。また、全ての授業について、以下の点はこなすこと。 1. LACSで提示する講義資料は事前にダウンロードし（印刷もしておくとい）、一読する。 また、そのテーマについて自分なりに考えておく。 2. 授業後には講義資料および紹介した文献を活用し、考察を深め、今後の授業および最終レポートに備えておく。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	自分の中にある常識・信念が揺さぶられる、そんな体験を提供できればいいのですが……。いずれにしろ、教育について考えるのは、簡単そうに見えて、実際は本当に難しく、だからこそ面白いのです。一緒に楽しみましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B5 教育と社会**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586018901	科目番号	05860189
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育心理)		
編集担当教員	吉村 宰		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宰		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宰		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	osamu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学教育イノベーションセンター		
担当教員TEL	2117		
担当教員オフィスアワー	随時（要アポイントメント）		
授業の概要及び位置づけ	本科目は教員免許取得に必要な教職教養科目です。 学校教員として身につけておくべき心理学的事項の概要を講義します。		
授業到達目標	児童生徒の学習と発達を理解する際に心理学的視点を少し持てるようになることを目標とします。		
授業方法（学習指導法）	授業は講義形式で行います。 予習が行われていることを前提として授業を進めます。 レスポンスペーパーを利用して教員と学生、学生同士の意見交換を試みます。 受講者が少数の場合、グループワークも取り入れたいと考えています。 WebClassを利用して資料等を配布しますので必ず利用できるようにしておいてください。		
授業内容	授業の進め方、本科目の概要について 学習について（古典的学習理論） 学習について（オペラント学習） 学習について（オペラント学習） 学習について（認知心理学における学習） 学習について（観察学習） 学習と意欲 発達について（認知の発達） 発達について（人格の発達） 発達について（発達障害） 教育評価について		
キーワード	学習, 発達		
教科書・教材・参考書	教科書：やさしい教育心理学, 第3版, 鎌原雅彦・竹綱誠一郎, 有斐閣アルマ		
成績評価の方法・基準等	原則として, 100点満点中, 期末試験70点, 小テスト30点として評価します。 出席状況を加点や減点に結びつけません。		

受講要件（履修条件）	過年度に同一科目を履修していないこと。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	心理学についての先入観を捨ててきてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B5 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586019301	科目番号	05860193
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育行政・制度論)		
編集担当教員	楠山 研		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 2 1 9 室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	随時(要メール連絡)		
授業の概要及び位置づけ	教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。		
授業到達目標	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的に身近なテーマをもとに、そのあり方について背景を含めて検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。		
授業方法(学習指導法)	簡単な講義を話題提供として、討論形式を中心に、適宜映像資料等を利用して授業を進めていく。班ごとの発表がある他、毎回発表について意見交換をしてもらう。		
授業内容	回	内容	
	1	第1回 オリエンテーション(この授業の進め方について)	
	2	第2回 授業担当者からの提案(1) 教育行政・制度とは何か	
	3	第3回 授業担当者からの提案(2) 現代における教育行政・制度①	
	4	第4回 授業担当者からの提案(3) 現代における教育行政・制度②	
	5	第5回 討論の進め方と練習	
	6	第6回 討論(1) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	7	第7回 討論(2) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	8	第8回 討論(3) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	9	第9回 討論(4) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	10	第10回 ここまでの議論のまとめと今後の提案作り	
11	第11回 討論(5) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		

	12	第12回 討論（6） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	13	第13回 討論（7） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	14	第14回 討論（8） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	15	第15回 教育行政・制度を学んでわかること
	16	試験
キーワード	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しない。 参考書 河野和清『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 その他の参考書は授業中に適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	この授業の目標が達成されているかどうかという観点から評価する。 授業中の討論への貢献度 40% 授業中の小レポート等 30% 定期試験（レポートの場合あり） 30%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	ある制度がなぜあるのか、その背景を含めて考える癖をつけましょう	

